

14時30分解禁

平成19年7月 全国百貨店売上高概況

平成19年8月17日

I. 概 況

1. 売上高総額	7,227億円余
2. 前年同月比	-4.3% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	94社 278店 (平成19年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,757,146㎡ (前年同月比:-0.8%)
5. 総従業員数	95,069人 (前年同月比:6.5%)
6. 3か月移動平均値	12-2月 -0.6%、1-3月 -0.1%、2-4月 -0.5%、 3-5月 -1.1%、4-6月 1.2%、5-7月 -0.1%

[参考] 平成18年7月の売上高増減率は-1.5% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

2か月ぶりの前年同月比マイナスとなった。

梅雨明けの遅れた7月は全国的に曇りや雨の日が多く、気温も低めに推移したことから、衣料品を中心とした夏物商材の動きは鈍く、中元の後半戦も伸び悩んだ。また、7月中旬の三連休に台風が直撃したこと、中越沖地震の発生が消費心理を冷やしたこと、7月最終日曜日に参議院選挙が行われたこと、前年に比べて土曜日が1日減少したことなど、様々なマイナス要素が重なり、セールや文化催事等の集客に大きく影響した。

さらに、売上比率の高い夏のクリアランスセール開始日が6月最終日に移行したため、その反動減があったことなども、7月の売上減少傾向を増幅させている。

なお、上記セール初日効果を平準化するため、6月(5.5%)と7月(-4.3%)2か月間の全国売上を合算した上で前年同期比をみると、トータルではプラス0.1%となる。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 太平洋高気圧の張り出しが弱く、梅雨前線が停滞したため曇りや雨の日が多かった。また、台風4号が13日～15日にかけて九州から本州南岸を通過したため太平洋側を中心に大雨となった。気温は、中旬を中心に寒気の影響を受けやすかったことから、北日本から西日本にかけて低かった。

(2) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日 (〃 土曜日1日減)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 20店、②変化なし: 37店、③減少した: 90店、④不明: 46店

(5) 7月歳時記(夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み)の売上(同上)

①増加した: 8店、②変化なし: 81店、③減少した: 17店、④不明: 87店

(6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 19店、②変化なし: 102店、③減少する: 21店、④不明: 51店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2007年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	722,712,279	100.0	-4.3 (-4.4)
10都市	464,708,645	64.3	-3.9 (-4.5)
札幌	17,677,674	2.4	-6.3
仙台	9,929,679	1.4	-2.6
東京	174,567,600	24.2	-3.9
横浜	38,165,889	5.3	-6.1
名古屋	45,954,124	6.4	-4.8
京都	27,581,103	3.8	0.6 (-5.2)
大阪	94,458,295	13.1	-3.3
神戸	19,597,208	2.7	-4.4
広島	17,610,138	2.4	-3.5
福岡	19,166,935	2.7	-5.2 (-10.5)
10都市以外の地区	258,003,634	35.7	-4.9 (-4.2)
北海道	4,932,590	0.7	-5.2 (-16.4)
東北	13,083,217	1.8	-8.8
関東	120,897,140	16.7	-4.8 (-2.4)
中部	21,133,432	2.9	-3.9 (-6.9)
近畿	22,937,515	3.2	-5.0
中国	17,818,737	2.5	-3.4
四国	14,936,044	2.1	-5.5
九州	42,264,959	5.8	-4.5

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	722,712,279	100.0	-4.3 (-4.4)
紳士服・洋品	47,741,429	6.6	-9.8 (-9.7)
婦人服・洋品	174,784,779	24.2	-8.7 (-9.0)
子供服・洋品	16,163,458	2.2	-16.6 (-16.4)
その他衣料品	21,472,391	3.0	-5.8 (-5.6)
衣 料 品	260,162,057	36.0	-9.2 (-9.3)
身のまわり品	88,875,574	12.3	-0.8 (-1.0)
化粧品	28,229,916	3.9	1.3 (1.4)
美術・宝飾・貴金属	35,599,454	4.9	-0.0 (-0.4)
その他雑貨	30,476,860	4.2	-3.1 (-4.3)
雑 貨	94,306,230	13.0	-0.7 (-1.2)
家 具	11,536,006	1.6	0.1 (-0.3)
家 電	2,277,254	0.3	-11.0 (-11.0)
その他家庭用品	20,715,230	2.9	1.4 (1.3)
家 庭 用 品	34,528,490	4.8	+0.0 (-0.1)
生 鮮 食 品	41,738,677	5.8	0.6 (0.8)
菓 子	45,217,093	6.3	0.8 (0.7)
惣 菜	38,323,883	5.3	-1.9 (-2.2)
その他食料品	85,060,831	11.8	-5.1 (-5.2)
食 料 品	210,340,484	29.1	-2.2 (-2.3)
食 堂 喫 茶	18,262,840	2.5	-3.0 (-2.8)
サ ー ビ ス	6,107,907	0.8	0.1 (0.8)
そ の 他	10,128,697	1.4	10.2 (9.5)
商 品 券	41,707,659	5.8	-5.1 (-5.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | - 3.9% (店舗数調整後 / 2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | - 4.9% (" / 2か月ぶりマイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	- 3.9	- 2.5	2か月ぶりマイナス
札幌	- 6.3	- 0.2	3か月ぶりマイナス
仙台	- 2.6	0.0	3か月ぶりマイナス
東京	- 3.9	- 0.9	3か月ぶりマイナス
横浜	- 6.1	- 0.3	2か月ぶりマイナス
名古屋	- 4.8	- 0.3	2か月ぶりマイナス
京都	0.6	0.0	9か月連続プラス
大阪	- 3.3	- 0.4	2か月ぶりマイナス
神戸	- 4.4	- 0.1	2か月ぶりマイナス
広島	- 3.5	- 0.1	2か月ぶりマイナス
福岡	- 5.2	- 0.1	3か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	- 4.9	- 1.7	2か月ぶりマイナス
北海道	- 5.2	0.0	7か月連続マイナス*
東北	- 8.8	- 0.2	7か月連続マイナス*
関東	- 4.8	- 0.8	3か月ぶりマイナス
中部	- 3.9	- 0.1	2か月ぶりマイナス
近畿	- 5.0	- 0.2	2か月ぶりマイナス
中国	- 3.4	- 0.1	2か月ぶりマイナス
四国	- 5.5	- 0.1	2か月ぶりマイナス
九州	- 4.5	- 0.3	2か月ぶりマイナス

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、プラスは家庭用品、マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。化粧品・菓子は前年比較を開始して以来7か月連続プラス。また、家具・その他家庭用品・生鮮食品がプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.3	-	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-9.8	-0.7	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-8.7	-2.2	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-16.6	-0.4	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-5.8	-0.2	2か月ぶりマイナス
衣料品	-9.2	-3.5	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-0.8	-0.1	3か月ぶりマイナス
化粧品	1.3	0.0	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.0	0.0	5か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
雑貨	-0.7	-0.1	3か月ぶりマイナス
家具	0.1	0.0	2か月連続プラス
家電	-11.0	0.0	5か月連続マイナス
その他家庭用品	1.4	0.0	2か月連続プラス
家庭用品	+0.0	0.0	2か月連続プラス
生鮮食品	0.6	0.0	3か月連続プラス*
菓子	0.8	0.0	7か月連続プラス*
惣菜	-1.9	-0.1	5か月ぶりマイナス
その他食料品	-5.1	-0.6	6か月ぶりマイナス
食料品	-2.2	-0.6	7か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-3.0	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	0.1	0.0	17か月連続プラス
その他	10.2	0.1	3か月ぶりプラス
商品券	-5.1	-0.3	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の7か月のみの推移

平成19年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成19年8月17日

I. 概況

1. 売上高総額	1,745億円余
2. 前年同月比	-3.9% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭-4.5% (88.1%) : 非店頭0.8% (11.9%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 28店 (平成19年6月対比±0社0店)
5. 総店舗面積	960,042㎡ (前年同月比: 1.3%)
6. 総従業員数	18,622人 (前年同月比: 6.2%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -1.4%、1-3月 -0.9%、2-4月 -1.5%、 3-5月 -1.1%、4-6月 2.2%、5-7月 1.1%

[参考] 平成18年7月の売上高増減率は-1.6% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

- (1) 今期中元商戦は、早期受注の効果で6月が好調であった反面、7月の動きは鈍く期間トータルではほぼ前年並みの結果となった。一方、ここ数年急伸しているネット受注は、引き続き2桁増の伸びを示している。
- (2) 全般的に低調な中、衣料品分野では、「秋色夏素材」と呼ばれる端境期商材の売場、及び秋冬物商材を早期に投入した売場が好評を博している。
- (3) 円安による一部値上げのマイナス影響があるものの、高所得層における消費マインドの高まりを受けて、高級輸入時計・宝飾品、海外ラグジュアリーブランドのファッション商材など、高額品分野は引き続き好調を維持した。
- (4) モノからコトへの消費スタイルの転換が進む中で、利用シーンが明確な旅行用品やスポーツ関連商材等が活発に動いた。
- (5) 今年の土用の丑の日は、天候不順や中国産養殖鰻の問題が影響して、国内産・天然物も含めた鰻そのものに対する需要が冷え込んだ結果、売上を大きく落としている。
- (6) 8月中旬までの売上動向は、都内のほぼ全店で前年比プラスとなっている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 3店、②変化なし: 8店、③減少した: 10店、④不明: 1店
- (3) 7月歳時記 (夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み) の売上 (同上)
 - ①増加した: 0店、②変化なし: 8店、③減少した: 0店、④不明: 14店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 3店、②変化なし: 16店、③減少する: 1店、④不明: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2007年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	174,567,600	100.0	-3.9
紳士服・洋品	13,554,425	7.8	-8.4
婦人服・洋品	40,750,755	23.3	-8.8
子供服・洋品	2,725,350	1.6	-12.2
その他衣料品	4,632,310	2.7	-6.8
衣 料 品	61,662,840	35.3	-8.8
身のまわり品	22,925,009	13.1	1.4
化粧品	6,933,835	4.0	3.7
美術・宝飾・貴金属	9,071,223	5.2	-6.4
その他雑貨	9,178,724	5.3	-3.2
雑 貨	25,183,782	14.4	-2.6
家 具	3,162,315	1.8	-1.2
家 電	793,447	0.5	-7.3
その他家庭用品	5,627,934	3.2	4.8
家 庭 用 品	9,583,696	5.5	1.7
生 鮮 食 品	6,622,733	3.8	0.8
菓 子	11,335,674	6.5	4.7
惣 菜	8,882,369	5.1	-2.3
その他食料品	19,998,360	11.5	-4.9
食 料 品	46,839,136	26.8	-1.4
食 堂 喫 茶	4,001,517	2.3	-4.3
サ ー ビ ス	1,680,792	1.0	3.7
そ の 他	2,690,828	1.5	-5.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

○本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率 (%)
商 品 券	7,638,074 千円	-4.0
従 業 員 数	18,622 人	6.2
売 場 面 積	960,042 m ²	1.3
営 業 日 数	31.0 前年	31.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、プラスは身のまわり品、家庭用品、マイナスは衣料品、雑貨、食料品。なお、化粧品・菓子は7か月連続プラス。また、生鮮食品は3か月連続プラス、その他家庭用品が5か月ぶりにプラスとなり、家庭用品のプラスに寄与した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.9	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-8.4	-0.7	4か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-8.8	-2.2	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-12.2	-0.2	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-6.8	-0.2	3か月ぶりマイナス
衣料品	-8.8	-3.3	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	1.4	0.2	3か月連続プラス
化粧品	3.7	0.1	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-6.4	-0.3	7か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.2	-0.2	3か月ぶりマイナス
雑貨	-2.6	-0.4	3か月ぶりマイナス
家具	-1.2	0.0	3か月連続マイナス
家電	-7.3	0.0	5か月連続マイナス
その他家庭用品	4.8	0.1	5か月ぶりプラス
家庭用品	1.7	0.1	14か月ぶりプラス
生鮮食品	0.8	0.0	3か月連続プラス*
菓子	4.7	0.3	7か月連続プラス*
惣菜	-2.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他食料品	-4.9	-0.6	6か月ぶりマイナス
食料品	-1.4	-0.4	7か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-4.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	3.7	0.0	15か月連続プラス
その他	-5.6	-0.1	9か月連続マイナス
商品券	-4.0	-0.2	4か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の7か月のみの推移

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>